

札企第 189-1 号

令和 6 年（2024 年）9 月 4 日

公立大学法人札幌市立大学

理事長 中島 秀之 様

札幌市地方独立行政法人評価委員会

委員長 細川 敏幸

公立大学法人札幌市立大学の第三期中期目標期間業務実績に係る評価結果案への意見に対する回答について

令和 6 年 8 月 29 日付で提出された第三期中期目標期間業務実績に係る評価結果案に対する意見（札市大総第 161 号）について、別添のとおり回答いたします。

【評価委員会事務局】

札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課

小澤・笠井

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

（TEL 011-211-2192、FAX 011-218-5109）

第三期中期目標期間の業務実績に関する評価結果(案)への意見に対する回答

1 小項目評価中、項目番号28番・32番・33番の共通事項について

今回の評価は、第三期中期目標・中期計画に基づく6年間の成果について評価検討を行う期末評価である。そのため、過年度における年度評価の結果に左右されることなく、中期計画期間内の成果指標の達成状況等を鑑みて評価委員会内で評価検討を行ったところ。

その結果、法人による自己評価が「Ⅲ」評価であっても、中期計画期間内で成果指標の達成状況が芳しくない項目については「Ⅱ」評価とした一方、成果指標に対し素晴らしい成果を挙げている項目については「Ⅳ」評価としたものをご理解頂きたい。

各項目における法人と評価委員会にて差異のあった評価事由は別紙のとおり。

2 小項目評価中、項目番号28番について

今回頂いたご意見については、業務実績報告書に記載されており、小項目28はコロナ禍の影響を最も大きく受けた項目であると認識している。

そのため、2020年～2022年までの海外渡航制限期間中については、オンライン対応を充実させた点等を評価し、成果指標が未達であった点はやむを得ない状況であったものとして評価検討を行ったところ。

しかし、その後、海外渡航制限が解除された後も、教職員と学生の受入・派遣人数について回復傾向にはあるものの、コロナ禍前の水準まで十分回復しておらず、貴大学における取組として「国際化」は重要な位置づけであることも鑑み、更なる改善を要すると評価したものをご理解頂きたい。

【別紙】第三期中期目標期間 期末評価に係る評価基準及び評価結果について

●大学評価「Ⅲ」⇒ 評価委員による期末評価「Ⅳ」の項目

項目No.	項目	小項目	評価事由	期末評価	
				評大 価学	評委 価員
1	両学部の学生が協働して地域課題に取り組む地域志向科目の実施	D×N学生の協働による人材育成	成果指標に設定された「卒業時に地域の課題発見、解決提案する能力が身に付いたと認識した学生の割合65%」において、第三期中期期間を通じて着実な運営を行い、地域に貢献できる人材育成という観点で高い成果を挙げている。中でも、2021～2023年の直近3年間において、能力が身に付いたと認識した学生の割合が両学部とも90%を超えている点は特筆すべきと考え、当委員会では「Ⅳ」評価とした。	Ⅲ	Ⅳ
	(成果指標) 卒業時に地域の課題発見、解決提案する能力が身に付いたと認識した学生の割合：65%				
3	デザイン、コミュニケーション等の実践能力を養うため、専門コース間による連携授業を実施	[D]カリキュラムの着実な運用	成果指標に設定された「卒業時に社会で活用できるデザイン、コミュニケーション等の実践能力向上を認識した学生の割合60%」において、コロナ禍のため、対面と遠隔授業を併用するなど工夫をしながら着実な運営を行い、社会で活躍できるデザイン、コミュニケーション等の実践能力を備えた専門職業人育成という観点で高い成果を挙げている。中でも、2021～2023年の直近3年間において、実践能力の向上を認識した学生の割合が両学部とも90%を超えている点は特筆すべきと考え、当委員会では「Ⅳ」評価とした。	Ⅲ	Ⅳ
	(成果指標) 卒業時に社会で活用できるデザイン、コミュニケーション等の実践能力向上を認識した学生の割合：60%				
13	留学生の日本語能力向上のため、デザイン研究科において日本語講座を開講	留学生へ日本語能力の向上支援	第三期中期期間における大学の取組として、「国際化」は重要な位置づけであり、留学生の日本語能力向上に資する本項目は大事な取組と認識。第三期中期期間中は、コロナ禍である中、外国人研究科生及び外国人研究生の日本語能力向上を支援する講座を着実に実施し、本講座が日本語能力向上に役立ったと認識した留学生の割合も成果指標を上回っている点は特筆すべきと考え、当委員会では「Ⅳ」評価とした。	Ⅲ	Ⅳ
	(成果指標) 日本語能力の向上に役立ったと認識した留学生の割合：80%				
24	市の課題解決に向けた提案や市の事業・施策の推進に係る依頼を積極的に受け入れる	札幌市と連携した受託・共同研究	デザイン・看護の両分野に加え、AITセンターの開設に伴い、依頼の受入や連携できる領域が拡大している。本項目における「札幌市からの受託研究・共同研究依頼及び地域産学連携協力依頼の件数」という成果指標も常に高い水準で達成しており、市政課題解決のためのシンクタンクとしての役割を果たしている点は非常に高く評価できる。また、産学連携の依頼制度において、札幌市のイントラや公式HP等で周知・公表を積み重ね、市の課題解決に向け貢献する姿勢は特筆すべきと考え、当委員会では「Ⅳ」評価とした。	Ⅲ	Ⅳ
	(成果指標) 札幌市からの受託研究・共同研究依頼及び地域産学連携協力依頼の受諾：20件				
26	サテライトキャンパスの利便性を有効活用し、市民や外部機関、他大学、行政等との連携を促進	サテライトキャンパスの有効活用	サテライトキャンパスを有効活用した市民や外部機関や他大学等との連携促進において、コロナ禍による利用制限もあり、一部の期間は成果指標を下回った。しかし、非接触式検温計や飛沫防止の亚克力板を設置するなど、コロナ禍における施設利用のあり方を模索し、2021年以降、徐々に利用者を回復させ、利用制限の緩和を行った2023年はコロナ禍前の水準まで利用者を回復させていることは素晴らしい、サテライトキャンパスが学外機関との連携の場として役割を十分に果たしている点を鑑みて、当委員会では「Ⅳ」評価とした。	Ⅲ	Ⅳ
	(成果指標) 外部機関や他大学等との連携の場としてのサテライトキャンパスの利用：2,500人				

●大学評価「Ⅲ」⇒ 評価委員による期末評価「Ⅱ」の項目

項目No.	項目	小項目	評価事由	期末評価	
				評大 価学	評委 価員
28	教職員及び学生の国際交流の機会を充実するため、海外提携校との交流活動を実施するとともに、他の海外校とも連携	海外提携校と人事交流の促進	第三期中期期間における大学の取組として、「国際化」は重要な位置づけであり、海外提携校を中心に、教職員や学生が多様な文化と異なる制度を実感する機会を提供する本項目は非常に重要であると認識。コロナ禍による海外渡航制限などの期間中、オンライン対応を充実させるなど工夫を行った点等は評価できる。しかし、海外渡航制限が解除された後も教職員の派遣・受入等の数値について、回復傾向にはあるが目標を下回っており、コロナ禍前の水準まで十分回復しておらず更なる改善を要するものと判断し、当委員会では「Ⅱ」評価とした。	Ⅲ	Ⅱ
	(成果指標) ・教職員・学生の派遣と受入：60人 ・海外提携校との交流活動：提携校ごと1件				
32	定例的な各種会議の開催回数、定例業務の更なる改善を図り、職員の超過勤務時間を縮減、ワーク・ライフ・バランスの向上を図る	組織生産性・教職員ワークライフ	ワーク・ライフ・バランスの向上に向け、会議のオンライン化による省略化や超過勤務時間の軽減に取り組みられている点は評価できる。一方で、有給休暇の取得率については、第三期中期期間を通して改善されておらず、成果指標に未達である点を鑑みて、当委員会では「Ⅱ」評価とした。	Ⅲ	Ⅱ
	(成果指標) ・学内委員会等が開催する各種会議：400回以下 ・全教職員の有給休暇取得率：40%				
33	退職者の補充など適切な教員採用を行う	定員計画に基づく教員採用	教員の公募は予定通り行われており、人手不足の中、「教員・教育の質を担保する」観点から、一定の基準を満たす人材を採用するため、採用の見送りや再任審査における不再任があることは理解できる。一方で、教員定数計画において、第三期中期期間を通して、必要数の採用に至っていない点は、教員のワーク・ライフ・バランスへの影響を鑑みても重要な課題であると認識している。今後の円滑な大学運営に向けて、現状の分析と人材を確保する方策について検討を要するものと判断し、当委員会では「Ⅱ」評価とした。	Ⅲ	Ⅱ
	(成果指標) ・定員計画及び「本学が求める教員像」に基づく教員の採用				